

平成21年度 政策評価書（事後の事業評価）

担当部局：経理装備局システム装備課
実施時期：平成22年1月～3月

事業名： 中距離多目的誘導弾

政策体系： 4－1 研究・開発

事業内容： 87式対戦車誘導弾及び79式対舟艇対戦車誘導弾の後継として、ゲリラ・コマンドウ部隊による攻撃等の多様な事態に対処する機能を加えた、中距離域で使用する多目的誘導弾を開発する。

経費総額： 約122億円

○評価の内容

1 事業の目的

87式対戦車誘導弾及び79式対舟艇対戦車誘導弾の後継として、着上陸侵攻や離島侵攻、ゲリラ・コマンドウ部隊による攻撃等の多様な事態に対し、中距離域で使用する多目的誘導弾を開発する。

2 達成状況

(1) 達成効果

下記の技術等を達成することで、着上陸侵攻や離島侵攻、ゲリラ・コマンドウ部隊による攻撃等の多様な事態に対処しうる機能を備えた、中距離域で使用する多目的誘導弾を開発することができた。

ア 射ち放し技術

目標の情報を誘導弾に与えて発射した後、誘導弾が自動的に目標を捕捉することを発射試験等により確認した。

イ 同時多目標対処技術

複数の目標を捕捉し、短い時間間隔で誘導弾を発射できることを発射試験等により確認した。

ウ 多用途性

装甲目標及び装甲目標以外の目標の双方に対処することが可能な弾頭であることを発射試験等により確認した。

エ システム接続性

他システムと接続して情報の送受ができ、効率的な運用が図れることを試験により確認した。

オ 量産単価の低コスト化

コスト低減活動により、主要構成品である発射装置及び誘導弾について、開発着手時の見積量産単価に比べ、数千万円の価格低減を図ることができ、安価な見積量産単価を達成した。

(2) 達成時期

平成16年度から20年度にかけて試作、平成18年度から20年度にかけて試験を実施し、所要の機能・性能を有することなどを確認した。

(3) 教訓等事項

本事業を通じて、着上陸侵攻や離島侵攻、ゲリラ・コマンドウ部隊による攻撃等の多様な事態に迅速かつ効果的に対処するための関連技術を獲得し、試験においてこれらの有効性を確認した。

○今後の対応

今後、陸上自衛隊の普通科部隊への整備を行う。

○その他の参考情報

運用構想図・・・別紙